



質疑応答・パネルディスカッションより リマ・ジャバドさんへの質問

Q1: 日本政府は科学的証拠に基づく掲載を主張、掲載による効果に懐疑的。このような懐疑的反対者には科学者としてどう反論しますか。

A1: CITES には、附属書 I~III へ提案するための、証拠に基づいた掲載基準というのがあります。すべての提案は FAO (国連食糧農業機構) およびトラフィックを含む、独立したパネルによって審査され、その国々によって掲載されるべきかどうかについての評価と勧告が出されます。その勧告は、提案した国が各提案について予め決定を下せるように、締約国会議の前に見られるようになっています。

ワシントン条約の附属書に掲載することの効果については、書ききれないほどありますが、

- ・取引は合法で、追跡可能で、持続可能であることが保証されるということ、
- ・その効果はその種と製品に関する既存の取引データのタイプを改善することになること、
- ・規制が守られるために国家間の協力が強化されること、
- ・税関士の能力向上、
- ・絶滅の危機にあり対策を要する種に対する普及教育の強化になること、
- ・取引が野生種に対して有害ではないと保証する「無害証明」(の手法) を発達させる義務が当該国に生じること。

Q2: 水揚げされたサメは何歳のもの、また成熟していない or しているものが多いのでしょうか？

A2: FAO のデータは、各国から報告された、おもに水揚げされた種と量に関するもので、年齢情報は要求されていません。一方、IUCN レッドリストの評価では、生活史の情報と、世界中の研究者が種ごとに水揚げ地点で年齢やサイズを調査した公開済の論文のデータを用いています。このような論文は何百とあり、オンラインで探すことができます。

Q3: 世界的に、食品価値のないサメ、エイの混獲を防止する対策や規制は行われていますか。

A3: 種の保全は国内法に依るところが非常に大きいです。例えば、シビレイを特別に保全している国、というケースは、私は知りませんが、インド洋のモルディブなどの国々では、その海域でのエイ全種の漁を禁止しています。もしエイを混獲してしまった場合は、できる限り安全にリリースするよう、政府は漁師に指導しています。保全対象の種に関しては、混獲は常に問題なのですが、混獲された生物を安全に海に返すための援助の提供や漁師のトレーニングが肝要であるとともに、多くの種では、さまざまな漁業において混獲軽減方法の開発と実践によって、混獲を減らすことに成功しています。



トロール網漁では、ウミガメを排除するための装置があり、ウミガメを生きのまま海に返すことができますが、これは多くのサメやエイにも有効です。ただ企業漁業ではすべてのサイズに合うものはないので、どのサメ・エイの種を守るかにより効果が違います。

サメやエイが多かかってしまう地域は、そこを季節的に禁漁にすることは有効です。また漁師に対して生きのまま混獲された生物のリリースを研修し、混獲された生物がなるべく早く生きてリリースされるように、漁具を海につけておく時間をなるべく短くするべきです。

Q4: サメ・エイ類と漁業との関係のゴールは？

日本のローカルなサメ消費はどうあるべきでしょうか。

Nature 誌に7月、外洋性サメ類の生息域の4分の1近くが、はえ縄漁によって侵害されているという論文が掲載されました。こうした状況が報告されることについては、どのように考えられていますか。

A4: 捕獲される種だけでなく消費され、取引される種についてもきちんとした管理のできているところでは（例えばオーストラリア、アメリカ、ニュージーランド）、ある種についてのサメ漁は持続可能とみられています。これは最も絶滅の危機に瀕した種の保全を確実にするための厳格な規制がある場合に限って可能です。したがって、日本のふかひれ消費については、漁業圧に耐える種を対象とした取引に交じって、絶滅危惧種が取引されることのないように、規制されるべきです。

世界中の漁業では、漁獲高と捕まるサメの大きさに変化が生じています。これは漁業者へのインタビューの結果として多数の学術論文に書かれています。しかしながら、彼らの共通している意見は、特定の種を他の漁師が捕り続ける限り、自分も捕るのは止めないというものです。ですから、全世界の漁業界にわたって適用され実施される規制がない限り、保全に必要な対策を漁師が取ることは困難なのです。

究極のゴールは、政府と漁業者が共に働くことによってそれらの種の持続可能性が保証されることです。この協働なくしては、現場において保全対策を取ることは困難です。これは外洋性の種であれ内洋性の種であれ同じことです。

ネイチャー誌の論文は、ある地域が外洋性サメ種および漁業努力のホットスポットであると書いています。この影響を小さくするには、混獲軽減方法を使ってサメが網にかからないようにすること、また、それらの種が特定の地域を回遊する際に生存可能性を高めるため、漁業を制限する地域を設けることです。